



三十周年総会・夕張中学校道徳教育等々  
思い出雑感

ユウパリコザクラの会代表 藤井 純一

あの出会いがなければ。全ては環境庁（当時）大雪山（ダイセツサン）パークボランティアレンジャーから始まる。昭和五九年第二六次日本南極地域観測隊に参加し、あこがれの地で夢のような暮らしをし、二年越冬の主張もかなわず帰国した。派遣前に勤務していた函館の復職である。社会復帰出来ず頻りに函館山の南壁で岩登りの日々を送っていた。二年後札幌に転勤になり、仕事は管理部門でマイク口通信回線的设计積算。これまで首から下で生きてきた三十有余年、その上南極ボケも継続の中、頭を使わなければならない職場への転勤である。社会復帰は程遠く、悶々と過ごしていた中、新聞に大雪山国立公園パークボランティアレンジャー募集の記事を見た。迷うことなく応募した。基本的には応募者は山好きな人であるが、多様な人の集まりであった。その中に夕張北高の名前が入ったジャーシー着ていた女性がいた。同郷のよしみで声をかけたのが大間違い。先方は飛んで火に入る夏の虫。機関銃のごとく話し出した。言わずと知れた夕張岳スキー場開発問題のことである。社会復帰出来ず悩んでいた私を落とすのは、赤子の手をひねる様なもの。ユウパリコザクラ会発足当時の出来事である。

あれから三十年決して磐石な組織運営ではなかったと思う。仲間の決別そして死等々。しかし最後まで夕張

### 第109号

2019. 5.31 発行

(令和元年)

ユウパリコザクラの会

事務局

〒069-0835

江別市文京台南町 53-13

TEL/FAX 011-387-1385

携帯 080-6090-1839

E-mail

info@yuparikozaakura.org

Website

http://yuparikozaakura.org

ようこそ花の夕張岳へ

https://www.facebook.com/yuparikozaakura/

岳の自然を後世に残すという理念を貫いた人々が今日の三十周年の喜びを迎えることができたと思う。

企業城下町を一步もはみ出さない夕張で自然保護を訴えるのは甚だ困難なことであった。夕張の川は真黒くて安泰なのである。子供たちは川が奇麗な日は日曜日と曜日の目安にした。洗炭場が休みだからである。夜署名を求め家庭訪問をした際、農協関係者の人はダムのかさ上げ反対のかい、なんて言われ、なかなか思うように集められなかったような気がする。またスキー場開発の動きを市職員が伝えてくれるのであるが、夜陰に乗じてという感じでひそひそと話しては帰って行ったことを覚えている。

保護団体と連携を取り開発阻止を成しえたことであるが、某彼女は孤軍奮闘したことも事実であろう。彼女曰くあなたはいつも肝心な時いなかった、と。妻に言われたことをそのまま彼女にも言われた。代表になって十余年最大の事業はヒュッテ建設であろう。二十五周年記念誌に書いたが、無鉄砲なことを思いついた付いた人を少しは恨む。未完成ながら登山者を受け入れて数年になる。若者のいないなかよくやったものだとつくづく思う。各地で写真展をやったこと。ヒュッテこけら落して「宮沢賢治を語ろう」の催し物をやったこと。勿論彼女の日舞の舞台造りで炊事棟の工事が遅れたこと。ヒュッテ開きでバンド演奏をしたこと。走馬灯ではないけど思い出は尽きない。

先日宮沢賢治の話をしてくれた「斎藤正義さん

しのぶ会」に前事務局長と行って来ました。田んぼでミュージカルの脚本をした人です。また宮沢賢治の研究者で「宮沢賢治と語ろう」を実施してくれた人です。夕張岳に関係した多くの人が亡くなりました。前田さん、内田さん、山影さん、畠山さんなど多くの人が亡くなりました。中でも河村さんの死は受け入れがたく悲しいことでした。

今年の二月十五日夕張中学校で道徳の授業講師に招かれました。夕張岳の自然保護について話してもらいたいとのこと。私の中学時代と違って今の子供は自然保護の認識は格段に優れていると思います。全員が開発より自然保護でした。しかし都会の生活には憧れがあるようです。例えばショッピングモールがあったらいいとか・・・私自身も五十数年前都会にあこがれて名古屋の生活を二年送りました。わかるような気がしますが、中には頼もしい生徒がいて、高校は外に出るが夕張に帰ってきたいと言った子もいました。そういう子が少しでもいればこの授業を思い出して夕張岳の自然保護に携わってくれると思います。

登山道パトロール&支障木整理を行いました。（残雪多し！6月中旬の登山は注意）

5月19日快晴の天気の中、登山道パトロール（障害支障木の整理作業）に行ってきました。冷水コースを少し進んだところからは、あちこちに残雪も確認できます。



5月は概ね良い天気が続く、今後も雪解けも進むと思われませんが、積雪は昨年よりはかなり多く、前月下旬の雪深トラバースは、6月中旬は長く続き、下旬以降も少し残ると予想されます。

「コザクラの会創立30周年記念講演会  
シンポジウム「未来の夕張岳を考える」

【フローク】

1989年4月にユウパリコザクラの会は創立しました。今年で創立30周年を迎えるにあたり、記念講演会を主催し98名の方に参加いただきました。誕生した1989年は、「平成」元年の年でもあり、今年の2019年は奇しくも令和2元年でもあります。コザクラの会は、まさしく「平成」の時代とともに歩んできた歴史があります。

今回創立30周年を記念して、活動を振り返る資料として年表を作成してみました。各年ごとの10大ニュース・国内版と海外版のそれぞれの第一位、ならびに流行語大賞・ヒット曲を調べて時事的なことを振り返りつつ、その当時のコザクラの会の活動履歴を振り返ってみます。ちなみに創立の年の国内ニュース第一位は、「昭和天皇(逝去・平成の世始まる)」。おなじみの小淵前総理が「平成」の文字を持ち上げている写真です。海外ニュースの第一位は、「ベルリンの壁崩壊」でした。ヒット曲はTHE BULEHARTS OF TRAIN TRAINで、流行語大賞はオバタリアンです。この年の4月にコザクラの会は誕生し、7月には池田文化庁調査官が夕張岳を現地調査で訪れ、10月には国土計画のスキー場計画の白紙撤回の要望と、夕張岳の天然記念物指定の要望書を各関係機関に提出しています。創立当初から、コザクラの会は非常にアグレッシブに活動を行っていたことがよくわかりました。

創立100年目の1999年には、高山植物の盗掘に對しての罰則の強化運動などを、各関係省庁まで出向いて請願したり、ネットワークを通じて、各地でのシンポジウムへの参加や、盗掘防止ボランティアパトロールなども精力的にこなしていききました。その2年後の

2001年8月に、北海道希少野生動物植物保護条例が制定され、1996年の夕張岳の天然記念物指定に続いて、小さな市民団体のコザクラの会は、2度行政を動かすことに成功したのです。

【オープニング】

30周年記念講演会は、3部に分けて開催されました。第1部のオープニングは、地元のママさんコーラスグループの「コールポピー」によるコーラスで幕があきました。今はどこにも音源が残っていない、かろうじて楽譜・歌詞が紙で保存してあったので、30年ぶりに4曲まとめて演奏していただきました。まさに眠っていた曲の発掘作業のようです。今回は4曲分のビデオ撮影をして、YouTubeからご覧いただくこともできるようになっています。



オープニングコーラス「コールポピー」  
夕張岳を守る活動の応援歌として、会が発足した1989年に作られた合唱組曲4曲（曲名：ユウパリコザクラ・花の夕張岳・ナキウサギ・本当のふるさとをつくろう 作詞：関山昭子 作曲：大西 進）歌詞も曲調も親しみ易いと感じました。動画のアドレスは  
<https://www.youtube.com/watch?v=WloJac9Rrrw&feature=youtu.be>

【記念誌贈呈】

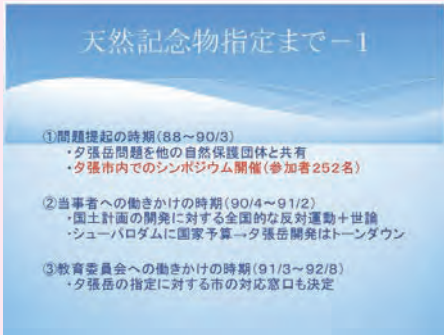
コザクラの会創立30周年記念として、会の記念誌を作成しました。今回はそのお披露目の場でもありません。この本は、「前田一歩園財団の自然環境保全活動助成金」から助成を受け作成しています。作成した1000部のおよそ半分については、北海道空知管内の小中学校・高等学校・養護学校・北海道内全市町村の図書館・全国の県立(都)立図書館 国立国会図書館・北海道の自然保護団体、関連団体、関係者、植物研究者に寄贈させていただきます。

今回の記念講演会の席では、コザクラの会の藤井代表から、夕張市への本の寄贈セレモニーを行いました。夕張市は代表して今教育長に受け取っていただきました。※最終ページに紹介と購入方法を記載しています。



藤井代表から夕張市今教育長への30周年記念誌の贈呈式  
通常の周年記念誌は会員の回顧録的な記事が中心ですが、今回の記念誌のコンセプトは「夕張岳のバイブル」。充実した内容になっています。





【「コザクラ」の会30年の歴史を振り返る】  
事務局の菊地からプレゼンテーションが行われました。会の発足当時からの会員は減少し、30年の会の歴史を語れる方は少なくなりました。当時の天然記念物指定までの会の動きと、炭鉱が閉山し観光事業へ舵をきった夕張市と、開発業者が推し進める「夕張リゾート開発構想」の発端から終焉までを時系列にまとめた資料が残っており、それを中心にプレゼン資料を作成しました。

「夕張リゾート開発構想」は、夕張において当時、地域再生のほぼ唯一の手段であった観光開発事業であり、地域振興の最大プロジェクトとして、一枚岩となり進めていたものでありましたが、創立間もないコザクラの会には、そのような強固な基盤をもつ集合体に勝利できるわけがありませんでした。コザクラの会は「夕張岳を開発から守ろう」というスローガンの下、市民向けの勉強会や体験登山、スライド上映会など草の根運動で、市民や行政担当部に働きかけを行いました。が、歩が悪いのは明らかでした。

そこで、コザクラの会がとった行動は、反対運動の組織化ネットワーク化であったのでした。これが功を奏し、全道の登山愛好家、自然保護団体、有識者が一丸となつて協力し合い、夕張岳の天然記念物指定の申請に拍車がかかりました。天然記念物指定後も、希少植物の盗掘があったり、困難な局面に何度も遭遇しましたが、その都度ネットワークでの結びつきを信じて、活動を推進してきた経緯が話されました。

【将来の夕張岳を考へるシンポジウム】

会は第2部に移り、メインイベントのシンポジウムに入っていきます。コーディネーターは長谷川雄助（会副代表、日本山岳会北海道支部）、シンポジストは、佐藤謙（北海道大学名誉教授・北大総合博物館資料部研究員）、坂村武（北海道生物多様性戦略グループ主幹）、藤井純一（会代表）、秋元和之（会パトロール部長）、阿部博子（会自然観察員）の5人で進められました。冒頭で夕張岳の「現状」について各シンポジストから5分間で話していただきました。佐藤謙さんからは夕張岳の高山植物の現状という内容で、エゾシカによる食害によって、シカが好きな植物（シナノキンバイソウ、イワイチヨウ等）が大きく減少して、不嗜好植物（トウゲブキ、シロウマアサツキ等）が増加傾向にある話、坂村さんからは、法律に基づく対策（自然公園法、文化財保護法種の保存法、道生物多様性条例、森林法など）と、施策による対策（監視、パトロール、盗掘防止監視、モニタリング調査など）が行われていて、コザクラの会も長くそれに携わっているとの説明がありました。秋元さんからは、花の百名山である夕張岳の魅力（高山植物の種類の多さ）や、登山口までの林道の不安定さ、登山道の木道の改修の必要性などの説明がありました。藤井さんからは、旧ヒュッテの話から始まり、

立替の苦労話、将来的に教育の場として利用されていくにあたっての設備の安全性などが話され、阿部さんからは林道や登山道に蔓延っている外来植物（オオハングウソウ、セイヨウタンポポ、オオバコなど）の現状の分布の状況などが話されました。

コーディネーターから、「将来的な夕張岳」についてと議題が移り、各シンポジストはそれぞれの立場で、将来の夕張岳が抱えるであろう課題について意見が交換されました。10年後、エゾシカ問題は解決しないもの、希少植物で残る種もあり、行政と一緒に現状把握をするが重要であるという点、専門家というプロの

現状把握と誰でもできる現状把握で順応的管理をする体制づくりが有効である点。アポイ岳や礼文島で高山植物群落が増少している中で、試験で試行錯誤をしながら調査や実証を続けているので、それらの結果も参考にしていく点。人口減少、高齢化対策、過疎化など一般的な課題にも考慮が必要になってくる点などが挙げられました。

「魅力的な夕張岳とは」の議題では、花の百名山でもある固有種と種類の多さが最大の魅力であるが、種の減少で魅力が減る。花の魅力を行政とどう維持していくかが肝心である点。「今後の活動」については、ヒュッテの維持と教育（自然保護）の推進を進めていく点。外来種への対策はセイヨウタンポポの在来種との見間違え防止、オオハングウソウは抜き取りによる駆除、オオバコに関しては抜き取り方法模索しないといけない点などが挙げられた。

最後に参加者から「夕張岳について今後できること」については、「地域」を基礎に据え、共に熟度を高め、いく必要がある点、そのためには地元の理解や協力が不可欠である点。また住民の意識や関心を集め、参加者が楽しめる活動を



シンポジウム 2019 「未来の夕張岳について」

創る工夫も必要であるという点が挙げられた。まとめとしては、地域が主体で行政や研究者等は下部組織として働き、地域作り&自然保護を一体化していくということが最も大切である、という結びでシンポジウムは時間を約15分オーバーして終了しました。

令和元年度スケジュール（予定含む）

月	日	各行事内容
6	4 (火)	夕張岳関係者協議会（市役所）
	9 (日)	第1回パトロール（登山道整備）
	15 (土)	ヒュッテ開き 14:00
	23 (日)	第2回パトロール
	未定	官民合同パトロール
7	7 (日)	第3回パトロール
	20(土)～21(日)	子供交流事業
	未定	官民合同パトロール
8	4 (日)	第4回パトロール
	28(水)～29(木)	夕張小学校5年生体験登山
9	8 (日)	第5回パトロール
	29 (日)	第6回パトロール
10	5 (土)～6 (日)	ヒュッテ冬囲い準備
	19(土)～20(日)	空知3団体、北海道自然保護連合交流
	26(土)～27(日)	ヒュッテ冬囲い

30周年記念誌はホームページから購入申し込みができます

30周年記念誌「夕張岳 大いなる自然 ～その魅力を訪ねて～」(定価 1500 円)をコザクラの会ホームページから申し込み可能です。

<http://yuparikozaokura.org/>

お電話での申し込みは以下までお願い致します。

Tel 080-6090-1839 事務局 菊地まで



A5 サイズ オールカラー 208P  
 専門家の先生の執筆による地質、森、植物、鳥類、昆虫など多角的に解説、炭都夕張の歴史や登山情報なども網羅しています。夕張岳の標高別の花のライブラリは必見。送料込 ￥1,620



大量に降り積もった炊事棟の雪下ろしをする

目覚めると快晴、滝ノ沢岳が美しい、きのこの様相を呈したバイオートイレの雪を下ろし、国道駐車場に帰ったのは昼前、皆さんお疲れさまでした。

1月26・27日、総勢7名で雪下ろしをしました。夕張市内に近づくにつれ、道端の雪が多くなりこれからの作業に不安がよぎる。晴天の下、国道駐車場を出発したが案の定深く柔らかい雪に行く手を阻まれ、やっとの思いでヒュッテに到着したのはお昼をだいぶ過ぎた頃だった。休む間もなくアライグマの痕跡を掃除する者、水道ホースを掘り出す者等手分けして作業にかかる、トイレの屋根は正月過ぎに雪下ろしをしたにもかかわらず、またまた大きな雪庇を造っていた。年明けまでは平年並みかと思われた積雪量だが、ここに来てペースを上げてきたようだ、ホースの水は出てこないが沢水の量は十分だ。母屋の雪は手が付けられず炊事棟の雪下ろしでタイムアップ、荷揚げも無事完了した夕餉の支度、ストーブは快調に燃え火のありがたさが身に染みる。凜とした夜空に星が瞬く、明日も期待できそうだ。

思いのほか深かった雪下ろし  
 秋元和之（パトロール部長）

会費の継続納入・ご寄付  
 ありがとうございます！

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会またはご寄付をよろしくお願い致します。

年会費 2,000円 家族会員 3,000円

名義：ユウパリコザクラの会

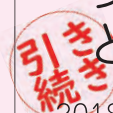
ゆうちょ口座：02780-9-43747

【お仕事の例】

- ・監視パトロール（道委託 / 森林管理署協定）
- ・ヒュッテ管理人・維持管理（夕張市委託）
- ・高山植物学芸員 / 文化財・森林観察員
- ・各関係団体との交流 / 広報・庶務作業



夕張岳ヒュッテの維持管理  
 と炊事棟建設にご支援を！



2018年度のヒュッテ寄付金は、320,858円という多大な金額を頂きました。本当にありがとうございます。

今年は水回りの抜本的対応やヒュッテ2階の非常階段の整備に取り掛かる予定です。作業はボランティアが無給で行っていますが、資材や諸費用が不足しておりますので、今一度のご支援をよろしくお願いいたします。

名義：夕張岳ヒュッテ管理運営委員会

ゆうちょ口座：02750-6-97634